

し ひなまついについて知ろう

3月4日（火）

<きょうのこんだて>

- ・ちらしずし
- ・すましじる
- ・ホキフライ
- ・なのはなあえ
- ・ひなあられ
- ・ぎゅうにゅう



ひな祭りは、女おんなの子この健すこやかな成せい長ちやうを祈いのる節せつ句くです。その歴れ史しは古ふるく、平へい安あん時じ代だいには人ひとのわざわいを紙かみで作つくった人にんぎやう形がたにうなつし、川かわへ流ながす「流ながしびな」の習ならわしがありました。



江戸時代えどじだいには、今いまのようなひな人形にんぎやうをかざる形かたちになりました。お祝いわいのしかたは、時代じだいとともに少すこしずつ変わかってきましましたが、子こどもたすこちの健せいやかな成ちやう長がを願ねがう行ぎやう事じとして今いまも受うけつがられています。

○ ちらしずし

ちらしずしの材ざい料りやうは、お祝いわいの意い味みがこめられています。錦きん糸した卵たまごや桃もも色いろのはんぺんは様さま々ざまな花はなに彩いろどられる春はるの野の山やまに見み立たてています。

○ 菜なの花はなあえ

春はるの訪おとずれを感かんじさせてくれる菜なの花はなは、鑑かん賞しやうする他ほかにも料りやう理りや、食しよく用よう油あぶらにもなる植物しよくぶつです。桜さくらと同おなじようはなに、花はなを咲さかせる時し期きに地ち域いき差さがあり、暖あたかい地ち域いきから寒さむい地ち域いきに開かい花か時じ期きが北ほく上じやうします。今日けふは、菜なの花はな和あえにしています。



○ ひなあられ

その昔むかし、ひなあられは、おひつおひつのふたふたや底そこに残のこった米こめつぶつぶを利用りようして作つくったお菓かし子しです。母はは親おやが娘むすめに、心こころ配くわりや節せつ約やく法ほうをひなあられによつて伝つたえていたのです。

